

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立大和小学校

【別紙1】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均(全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		46.9	49.2	48.7	50.8	48.4
	本年度結果 偏差値平均	49.2	48.2	49.3	49.3	49	49
算数	前年度結果 偏差値平均		46.8	50.3	46.6	47.8	47.6
	本年度結果 偏差値平均	49.7	43.7	46.5	49.1	46.4	47.1
理科	前年度結果 偏差値平均				54.3	51.8	52.6
	本年度結果 偏差値平均			50	53.5	49.5	51.1
全体	前年度結果 偏差値平均		46.8	49.7	49	51	52.1
	本年度結果 偏差値平均	49.4	45.9	48.6	50.6	48	48.6

②全国学力・学習状況調査 正答率平均(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対票比)	66 (95.6)	59 (92)
本年度結果 (対票比)	63 (91.3)	64 (100)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語では、2年3年で「読むこと」4年5年6年で「書くこと」に特に課題がある。2年3年の「読むこと」では、特に「話の内容の大体をとらえる(2年69%、3年80%)」に課題がある。4年5年6年の「書くこと」では、特に「主題や構成を読み取る(4年71%)」「考えや感想を持って伝え合う(5年69%)」に課題がある。この他、学年ごとに「文章を読み感想などを伝え合う(3年66%)」「計画的に話し合い考えをまとめる(6年78%)」に課題が大きい。 ●算数では、2年は「数の構成と表し方(83%)」、3年は「長さ、かさ(92%)」、4年は「長さ、重さ(86%)」、「たし算とひき算(85%)」「かけ算(85%)」「分数(82%)」、5年は「わり算(80%)」「分数(87%)」「表と折れ線グラフ(82%)」、6年は「整数の性質(72%)」「分数(75%)」「単位量当たり、速さ(80%)」「割合、百分率(76%)」に大きな課題がある。 ●理科では、4年は「思考・判断・表現(104%)」、領域では「光の進み方や明るさ・暖かさ」、5年は「知識・技能(106%)」、領域では「水の温度による変化」、6年は「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに104%、領域では、「天気の変化と気象情報」に課題がある。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語では、日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題が(44.8%対票比-17.1p)、文章の種類とその特徴を理解しているかどうかをみる問題が(65.5%対票比-15.7p)、送り仮名に注意して漢字を文章の中で正しく使う問題が(79.3%対票比-14.4p)に課題がある。 ●算数では、テープを切って台形の名前とその特徴を選ぶ問題が(44.8%対票比-18.1p)正三角形の意味や性質を理解し、紙を切って開いた三角形を正三角形にするための角の大きさを求める問題が(13.8%対票比-11.3p)、表の中の適切な数の組を用いて比例の関係でないことを説明する問題が(75.9%対票比-13.5p)に課題がある。
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 ・45分間の授業で、基礎基本の力を身に付けるための授業改善 ・児童の主体的な学びにつながる「問い」「自己決定」のある授業改善 ・「聞くことを大切に、ねらいを達成するための「学び合い(ペアやグループによる学習)」のある授業改善 ・教科書の文章を「読む」ことがでる授業改善 ・教材文等のことばに根拠を求める授業改善 ・NRT得点40点未満の児童への具体的な対応がある授業改善 ・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業改善 ・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり	①授業研究を一人1回以上行い、授業研究の指導案に、全ての児童の主体的な学びを実現するための「問い」と「自己決定」に係る視点での指導の工夫について記載する。 ②年間一人1単元以上、「個別最適な学び」の視点で単元内自由進捗学習を開発する。 ③「協働的な学び」の視点で、必然性のあるペア活動などの学習形態の工夫を取り入れ、児童同士が考えを伝え合い学び合う授業改善を行う。 ④主体的な学びの実現を目指したICT機器の活用について、研修を行い蓄積していく。 ⑤9月及び1月に「読む」「書く」「支持的風土」の定着のための重点指導を行う。 ⑥算数は、45分間で適適用、振り返りまで行う。 ⑦国語や社会は、45分間の中で、教材文を声を出して読む。 ⑧学期ごとに、「校内漢字検定」「校内算数検定」を行う。 ⑨単元末の繰り返し練習時には、複数の教職員で指導し、その単元の学びを確かなものにして次に進める。	①年間1回以上(校内授業研究) ②夏季・冬季休業で取組についての研修実施し、開発。 ③④校内授業研究、管理職等による授業観察 ④夏季休業中の研修。毎日、クロームブックを使う家庭学習を実施 ⑤⑥⑦夏季・冬季休業で取組についての研修実施。9月・1月、管理職による授業観察。 ⑧1学期6月、2学期11月、3学期2月に実施。 ②～⑧夏季・冬季休業の研修で、方向性を揃えるための取組の交流。	・授業者アンケートによる調査(5項目 肯定的評価90%以上) ・各学期まとめ単元末テスト平均値(1・2年90%以上、3・4年85%、5・6年80%以上) ・Q-U2回目の学習意欲の数値(全国得点以下の学級は、全国得点以上、全国得点以上の学級は、1回目の得点以上) ・児童質問紙の肯定的評価(「国語、算数、理科、社会の授業がよく分かる」90%以上) ・NRT得点40点未満の児童の各学期の単元末テストの平均点を70点以上にする。
【学級・学習集団づくり】 安心・安全な環境をつくり、上記の視点を視点授業づくりを行うことで、親和性の高い集団をつくる。 ○安心・安全な学習環境をつくるため、学習ルール、環境整備を徹底する。 ○生徒指導上の問題の未然防止や、個別の支援のため、複数体制で見守りができるようにする。 ○生徒指導上の問題について組織的に取り組む。 ○Q-UアンケートとNRTとのクロス分析を行い、親和性の高い集団づくりについて研修し、実践する。	①Q-UアンケートとNRTとのクロス分析による実施把握と改善計画の立案 ②学習ルールや環境整備を徹底しよう。管理職は主に「学習ルール」を5分程度で毎日、教務主任や研究主任は主に環境整備を放課後に月に1回、校内を見て回り、改善を図る。 ③運動会や児童交流行事、参観日と共有を図る。 ④生徒指導上の問題は、生徒指導担当や管理職に報告し、取組の方向性を決め指導するという一連の体制をつくり、実施する。 ⑤複数体制での見守りができるよう、計画書を作成し、全員で取り組む。 ⑥個別最適な学びや生徒指導、集団作りについて研修を行い具体的な取組を決め実践する。 ⑦(再掲)9月及び1月に「読む」「書く」「支持的風土」の定着のための重点指導を行う。	①6月、夏季休業、11月 ②毎日及び1月1回 ③週2回(児童の交流は夏季休業及び冬季休業でも行い、方向性を揃える) ④随時 ⑤毎日 ⑥夏季・冬季休業で取組についての研修実施。9月・1月、管理職による授業観察。 ⑦夏季休業、冬季休業での研修、随時	・Q-U2回目の一斉実施の児童の割合(全学級50%以上) ・児童質問紙の肯定的評価の割合(「学校のきまりを守っている」90%以上、「自分にはよいところがある」90%以上、「困ったことがあったとき、先生や友達に相談できる」100%以上)

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて)※()数値:全国正答率との比較 ●国語では、2年3年で「読むこと」4年5年6年で「書くこと」に特に課題がある。2年3年の「読むこと」では、2年生が「重要な話や人物の行動をとらえる(82%)」3年生が「話の内容の大体をとらえる(78%)」に課題がある。4年5年6年で「書くこと」では、「目的に応じて工夫して書く(4年生91%)」「漢字の書き・仮名遣いや複合語など(6年生92%)」に課題がある。 ●算数では、2年生が「時刻の読み方(83%)」、3年生が「長さ・かさ(71%)」、4年生が「分数(73%)」、5年生が「わり算(84%)」、6年生が「単位量当たり、長さ(65%)」「整数の性質(68%)」に課題がある。 ●理科では、4年生が「光の進み方や明るさ・温かさ(88%)」、6年生が「振り子の動きとそのきまり(90%)」に課題がある。5年生は、どの内容も全国正答率を超えており、おおむね定着しているといえる。 (全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科では、「漢字を文の中で正しく使うこと」(15.6%対票比-29.1P)と、「文の中における主語と述語の関係をつかえること」(43.8%対票比-20P)と、「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えること」(53.1%対票比-22.6P)に課題がある。 ●算数科では、「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している」(59.4%対票比-10P)と、「示された情報を基に、表から必要な情報を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうか判断できる」(53.8%対票比-7P)に課題がある。	
---	--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・児童の主体的な学びにつながる「問い」「学び合い」のある授業づくり ・45分間の授業で、内容を活用した「書く」から読解した「わかる」授業づくり ・学習の習慣化を目指す授業づくり ・「聞くことを大切に、ねらいを達成するための「学び合い(ペアやグループによる学習)」のある授業づくり ・教科書の文章を「読む」ことがでる授業づくり ・教材文等のことばに根拠を求める授業づくり ・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり ・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業改善 ・毎時間の定着状況の確認と、個別指導の充実。	①授業研究を一人1回以上行い、授業研究の指導案に、全ての児童の主体的な学びを実現するための「問い」の工夫について記載する。 ②と学べ・人・社会、環境整備を徹底しよう。管理職は主に「学習ルール」を5分程度で毎日、教務主任や研究主任は主に環境整備を放課後に月に1回、校内を見て回り、改善を図る。 ③運動会や児童交流行事、参観日と共有を図る。 ④生徒指導上の問題は、生徒指導担当や管理職に報告し、取組の方向性を決め指導するという一連の体制をつくり、実施する。 ⑤複数体制での見守りができるよう、計画書を作成し、全員で取り組む。 ⑥個別最適な学びや生徒指導、集団作りについて研修を行い具体的な取組を決め実践する。 ⑦(再掲)9月及び1月に「読む」「書く」「支持的風土」の定着のための重点指導を行う。	○授業者アンケートによる調査(6項目 肯定的評価90%以上)・・・1学期末、2学期末 ○各学期まとめ単元末テスト平均値(1・2年90%以上、3・4年85%、5・6年80%以上)・・・学期末 ○Q-U2回目の学習意欲の数値(全国得点以下の学級は、全国得点以上、全国得点以上の学級は、1回目の得点以上)・・・5月10月 ○NRT得点40点未満の児童の各学期の単元末テストの平均点を70点以上にする。・・・学期末
【学級・学習集団づくりについて】 ・安心できる居場所づくり ・支持的風土の醸成	①児童に居場所意識を持たせ、内容と親和性のある環境となる「居場所意識・ルール・マナー」を身に付けさせる。 ②安心・安全な環境をつくる。学習環境を5分程度で毎日、教務主任や研究主任は主に環境整備を放課後に月に1回、校内を見て回り、改善を図る。 ③運動会や児童交流行事、参観日と共有を図る。 ④生徒指導上の問題は、生徒指導担当や管理職に報告し、取組の方向性を決め指導するという一連の体制をつくり、実施する。 ⑤複数体制での見守りができるよう、計画書を作成し、全員で取り組む。 ⑥個別最適な学びや生徒指導、集団作りについて研修を行い具体的な取組を決め実践する。 ⑦(再掲)9月及び1月に「読む」「書く」「支持的風土」の定着のための重点指導を行う。	○HyperQ-U学級生活満足度(位置づけ)児童の割合を全学級の60%以上・・・5月10月 ○児童質問紙によるアンケート調査、児童質問紙肯定的評価の割合・・・1学期末・2学期末 (あ)「学校のきまりやルールを守って生活をしている」90% (い)「自分にはよいところがある」85% (う)「自分のよさを周りの人に認められていると思う」85% (え)「将来の夢や目標を持っている」95% (お)「努力すれば、自分もよいことは出来ると思います」95% (か)「地域のことが好きです」95% (き)「困ったことがあったとき、先生や友達に相談できる」100%